

2021丹波縄文の森塾（2日目）

7月10日（土）、丹波縄文の森塾2日目を開催し、縄文土器づくりに挑戦しました。

午前中、まず滋賀県文化財保護協会の鈴木 康二先生から、発掘された化石や様々な研究成果を交えながら、そこから想定される縄文時代の自然、人々の暮らし、そして土器についての話がありました。積極的に質問したり、自分の意見を述べたりする塾生があり、熱心に聞き入っていました。

その後、陶芸家の宮本 ルリ子先生の指導のもと、粘土を使って縄文土器づくりに挑戦しました。まずボール状に丸めた粘土を潰し、丸く平らにして土器の底部分を作ります。それを裏返した朴ノ木の葉っぱの上に置きます。そうすることで、土器の裏側に葉脈の模様を付けます。続いて、ひも状に伸ばした粘土を底の部分に2段重ねにして貼り合わせ、竹ペラや指で継ぎ目を塞いで筒状にします。これが土器の下半分になります。続いて、土器の上半分作りに取りかかりました。また、ひも状に伸ばした粘土で輪を2つ作って貼り合わせ、口になる上部を少し広げる形にしました。

この時点で作業を中断してお昼にしました。お昼ご飯はサケのホイル焼き、味噌汁とご飯です。サケ、タマネギ、ピーマン、シメジなどをホイルで包み、チーズとマヨネーズを載せて焼き上げたホイル焼きと具沢山の味噌汁を美味しくいただきました。

午後、土器の上部に飾りを付けるところから作業を再開しました。ヘラで切り取ったり、穴を開けたり、色んな形にした粘土をくっつけたりしました。中には最上部を竜が横たわるようなデザインにする塾生もあり、その出来映えにサポーターがすごく感心していました。上部が出来上がると、先に作った下半分とくっつけます。そして繋ぎ目にひも状に伸ばした粘土を巻き付け、指やヘラで押しつぶしてしっかり貼り合わせます。仕上げに色んな模様を描いたり、取っ手を付けたりして完成です。小学生には少し難しい作業でしたが、それでも宮本先生やサポーターの助けを借りながら、最後まで熱心に取り組み、それぞれ個性的な土器を作り上げました。作った作品は倉庫で十分に乾かし、次回7月30日の塾で野焼きにし、翌31日に取り上げます。どんな縄文土器が出来上がるか大変楽しみです。



縄文時代の暮らしや土器についての講義（滋賀県文化財保護協会 鈴木 康二先生）



土器のお話と作り方の指導（陶芸家 宮本 ルリ子先生）



土器づくりに熱心に取り組みました。



土器づくりに熱心に取り組みました。



食事の様子（サケのホイル焼きと味噌汁）